

広島市の細菌性三類感染症の検査結果(2015年)

生 物 科 学 部

は じ め に

広島市内で発生した細菌性赤痢, コレラ, チフス及び腸管出血性大腸菌感染症など細菌性の三類感染症に対しては, 医療機関, 保健所, 各区保健センターの連携のもと, 当所において患者や接触者の感染確認のための細菌検査や分離菌株の遺伝子検査等の疫学解析を実施し, 感染拡大の予防に資するよう努めている。

2015年の細菌性三類感染症の発生状況及び検査結果を報告する。

方 法

1 感染症発生状況

2015年に市内の医療機関等から届出された患者の情報及び医療機関等で分離され当所に搬入された菌株及び当所で患者家族や接触者などの検便から分離した菌株の検査結果をもとに集計した。

2 血清型別及び毒素型別検査

届出時に医療機関等から提供された菌株及び当所で関連検体から分離した菌株について, 常法による生化学的性状試験, 血清型別及びPCR法等の遺伝子検査やイムノクロマト法などの免疫学的検査による毒素型別を実施した。

3 薬剤感受性試験

12種類の抗生物質(ABPC, SM, KM, GM, TC, NA, CP, CPF, CTX, ST, TMP, FOM)について, Sensi-Disc(BD)を用いた一濃度ディスク法により実施した。

4 MLVA解析

厚生労働省通知に基づき, 腸管出血性大腸菌の菌株を国立感染症研究所細菌第一部に送付し, MLVA法による解析に供した。結果はMLVA typeとして還元された。

結 果

1 細菌性赤痢・コレラ・チフス感染症

細菌性赤痢の届出は1件あったが, 市外の患者であったため本市での検査は実施していない。

コレラ, チフスの届出はなかった。

2 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の発生状況を表に示す。患者の届出が14件あった。患者の発生は5~8月の比較的気温が高い時期に多くみられた。

患者からの分離菌株14株の内訳は, 026が7株, 0157が3株, 0111が2株, 0115が2株であり026が多くみられた。

026はすべて026:H11, VT1単独産生であった。0157は, すべて0157:H7で, そのうちVT1・VT2両毒素産生が2株, VT2単独産生が1株であった。0111は2株とも0111:HNM, VT1・VT2両毒素産生で, 0115は2株とも0115:H10, VT1単独産生であった。

謝 辞

調査にご協力いただいた医療機関及び各区保健センターの各位に深謝いたします。

表 腸管出血性大腸菌感染症の発生状況

No.	届出日	発生区	年齢	性別	血清型	毒素型	MLVA type	薬剤耐性
1	20150512	安佐南	5	女	026 : H11	VT1	13m2040	
2	20150517	安佐北	7	男	0157 : H7	VT1, VT2	15m0034	ABPC
3	20150517	安佐北	39	男	0157 : H7	VT1, VT2	15m0034	
4	20150520	安佐南	5	男	0111 : HNM	VT1, VT2	15m3003	SM, KM, TC, NA, CP, SXT, TMP
5	20150526	安佐南	7	女	0111 : HNM	VT1, VT2	15m3003	SM, KM, TC, NA, CP, SXT, TMP
6	20150627	南	59	女	026 : H11	VT1	15m2047	ABPC
7	20150703	南	2	女	026 : H11	VT1	13m2040	ABPC
8	20150703	南	5	女	026 : H11	VT1	13m2040	ABPC
9	20150706	南	32	男	026 : H11	VT1	13m2040	ABPC
10	20150706	南	8	女	026 : H11	VT1	13m2040	ABPC
11	20150706	南	35	男	026 : H11	VT1	13m2040	ABPC
12	20150717	安佐南	62	女	0115 : H10	VT1		ABPC
13	20150724	安佐南	68	男	0115 : H10	VT1		ABPC
14	20150831	安佐南	6	女	0157 : H7	VT2	15m0201	